

2012 年台湾旅行

右城 猛

まえがき

2012年2月5日(日)～8日(水), 土佐電トラベルなど数社の旅行会社が共同で企画した「チャーター便で行く!台湾 4日間 三都市ハイライト」というツアーを利用して, 高雄, 花蓮, 台北の三都市を旅行してきた。

台湾は, 1999年に起きた台湾地震の被害調査で行っただけであったので, 一度は観光したいと考えていた。日頃懇意にいただいている小笠原夫妻に誘われたことがツアーへの参加を決めることになった。

チャーター便は, 台湾復興航空のジェット機。210ある座席は満席であった。

台湾では, 23回目となるランタンフェスティバルが台湾の春節(旧正月)に当たる2月6日から2月19日までの14日間開催される。フェスティバルの初日に高知観光をPRするため, 「よさこい鳴子踊り」の踊り子隊や, 県議会議員団, 高知県や高知市の職員らも乗っているということであった。高知龍馬空港には尾崎知事も駆けつけ, 出発式が行われていた。

高知から高雄へ(2月5日)

高知龍馬空港で出国手続きを済ませ, 予定より30分遅れの12時25分, 復興航空のチャーター便で飛び立つ。

台湾桃園(とうえん)国際空港には, 現地時間の14時到着。日本との時差は1時間。所要時間は約2時間半。

桃園国際空港は台湾最大の国際空港。台北から車で約1時間の距離にある。日本で言えば, 成田国際空港のような存在。羽田国際空港に当たるのが台北の松山国際空港。



高知龍馬空港



空港に到着すると, 暑さと湿気でむっとする。到着したターミナルの窓から外を眺めると, 第1ターミナルの改修工事が行われていた。

桃園国際空港の年間利用者数は2,200万人。



土佐電トラベルのツアー参加者は20名。空港からは貸し切りバスで桃園駅へ行く。



台湾高速鉄道の桃園駅の横に、新しい駅舎が建設されていた。桃園国際空港から桃園駅を結ぶ鉄道を建設中。



桃園駅の自動改札。最後に入ってくるのは土佐電トラベル添乗員の奥野さんと現地ガイドの頼(ライ)さん。



桃園駅から高雄までは台湾高速鉄道で行く。構内に入ってきた電車は、15時21分発の高鉄709号。新幹線「700系のぞみ」をベースにしたもの。

2007年に開業された台湾高速鉄道は、台北駅から高雄市の新左営駅までの345kmを結んでいる。最高速度300km/h、ノンストップ便なら台北と高雄間を1時間20分で走る。



17時、新左営駅に到着する。



貸し切りバスで蓮池潭(れんちたん)へ。道中、頼さんが地図を示しながら台湾について説明してくれた。

頼さんは、神田の外語専門学校に留学し、大阪出身の日本人女性と結婚しているというだけあって、日本語が達者である。

台湾の開発旅行社の添乗員として日本によく来られているようである。「NHKの大河ドラマ龍馬伝を見て以来、坂本龍馬の大ファンとなった。高知の坂本龍馬記念館に行きたい」と話されていた。

東日本大震災で、台湾からの義援金は200億円を超えている。台湾は人口が2300万人。平均所得が160万円であることを考慮すれば義援金額はダントツ世界一。

1999年の台湾中部大地震や2009年の豪雨災害で日本から受けた支援への恩返しということもあろうが、台湾には親日家が多い。

1895年(明治28年)から1945年(昭和20年)までの51年間、台湾は日本の統治下にあり、台湾総督府が置かれていた。日本人の手によ

て学校教育，上下水道の整備，発電・灌漑事業などが行われ，台湾の発展に多大な貢献をしている。

頼さんは，経済評論家の金美麗や歌手のジュディオングの呼びかけが大きいと話していた。



バスの窓から「檳榔(ビンロウ)」の看板を至るところで目にした。ヤシ科の植物で，その実を売っている店である。少量の石灰と一緒に噛むと，頭がすっきりして眠気が無くなることから，タクシーやトラックの運転手がよく利用している。煙草や麻葉のように中毒になるため，一旦やり出すと辞められなくなる。

相変わらずビンロウの愛好者は多いようで，店舗の数は12年前と変わらないように思えた。

蓮池潭



17時35分，高雄の観光名所の一つである蓮池潭(れんちたん)に到着する。以前は，名前が示すとおり池一面に蓮が生えていたようであるが，現在は一部の箇所に残っているのみ。

池の中には，七重の塔が二つ並んで建っており，池の岸と塔の間には，ジグザグに折れ曲がった橋が架かっている。人は橋に沿って進む事が出来るが，悪霊は真っすぐにしか進めなく，水中に落ちることから，魔除けの意味があるようである。

台湾では一番良い動物は龍，一番悪い動物は虎と信じられている。龍の口から入り虎の口から出てくると，災いが消えて吉が増すのである。



折れ曲がった橋を渡って七重の塔を見物



龍の口から中に入る。塔の上は展望台になっているが，17時30分で階段の入り口が閉められていたため，上がることはできなかった。



龍や虎の中には壁画が描かれている。



蓮池潭の前で果物が売られていた



右端が釈迦頭，左の青い果物はナツメ



菱の実

池や沼に自生する菱

菱の実と菱

蓮池潭の前の道路の脇で、台湾産の果物が売られていた。ガイドの頼さんのお勧めは釈迦頭（シャカトウ）。お釈迦さんの頭のように、ぶつぶつができています。試食すると、洋梨のように結構美味しい。

小さな青リンゴのような果物はナツメ。中も白くて瓜二つ。食べると梨とりんごの間のようなさっぱりした味。

グロテスクな黒い果物は菱の実をゆでたもの。50 円で売っていた。皮をむいて食べると栗のような風味。とても美味しい。ネットで調べると、池や沼に自生する水草で、昔から日本にもあり、万葉集で柿本人麻呂が次の歌を詠んでいる。

君がため 浮沼（うきぬ）の池の
菱（ひし）摘（つ）むと
我が染（し）めし袖（そで）
濡（ぬ）れにけるかも



蓮池潭の前には、赤色のきらびやかな寺院がある。高雄保生大帝慈清宮。神のように人々から尊敬されていた医師 呉明（保生大帝）を奉った寺院。折角であるので、第一コンサルタンツの社業発展と社員の健康を祈願する。

夕食と六合夜市



海鮮料理の店で台湾ビールを飲みながら夕食。

夕食後、高雄市最大の夜市である六合夜市を8時から約30分間だけ散策する。全長380mの区間に170軒の屋台が並んでいる。

台湾の夜市では、台北の士林(しりん)夜市が有名であるが、30分見ただけの感想でいえば私は六合夜市が好きである。士林夜市は衣類の店が多いのに対して、ここは珍しい肉、魚、果物が豊富。夕食を済ませたばかりで満腹であったのが残念。

散策中に異様な臭いが漂ってきた。出所は臭豆腐(しゅうどうふ)の屋台。植物の汁と石灰等を混合し、納豆菌と酪酸菌によって発酵させた漬け汁に豆腐を一晩程度つけ込んだ物。豆腐の表面の植物性タンパク質がアミノ酸に変化し、強烈な臭いを発していたのである。



高雄漢来大飯店 Grand HI-LAI HOTEL



高雄漢来大飯店(ホテル提供)



8時50分、日本時間の9時50分にホテルへ到着。

45階建ての五つ星高級ホテル。大通りに面した側は、高級ブランド品を売る百貨店になっている。日本人客が多く、60%を占めている。



部屋も立派。申し分なし。



部屋から高雄港が見える。9時から花火の打ち上げが始まった。台湾では、明日から正月期間に入る。それを祝っての花火のようである。

派手に上がったと思っていたら、わずか10分足らずで終わってしまった。



ホテルの朝食はビュッフェ形式。腹一杯食べる。



部屋から眺めた高雄港。台湾で最大の港。世界では三番目。沖合の台湾海峡を通る船が非常に多い。



高雄漢來大飯店の入り口



写真の奥に見える赤い建物は、有名な高級ホテル高雄圓山大飯店。



ホテル入り口の正面にあった噴水



九曲橋を渡るとロイヤルゼリーを販売する男性がいた。

清澄湖観光(2月6日)

ホテルを出発し最初に観光したのは、中国杭州の「西湖」をモデルにして造られたと言われている清澄湖。



清澄湖には、ジグザグに曲がった九曲橋が架かっている。



周りにはミツバチの箱がたくさん置かれていた。カモフラージュではない。箱の口からミツバチが入り出しているのを確認できた。本当にミツバチが巣を作っていた。客の信用を得るには良い方法である。

糖尿病、高血圧、前立腺肥大によく効くというので思わず買ってしまった。商売の上手さに感心させられた。



寿山に向かう途中、三人が乗っているバイクを見かけた。三人乗りは交通違反であるが、取り締まりは厳しくない。頼さんは、「女の人の腹の中の子供まで含めると 7 人乗っているのを見た」といって笑っていた。頼さんはよく冗談を言う。本当の話かどうかは分からない。

寿山公園の忠霊祠



忠烈祠は、国のために命を落とした人々を祀ったもので、日本統治時代の神社を改築しているところが多い。ここも元々は高雄神社。



玉石を敷き詰めた「健康歩道」。ここは靴を脱いで歩く。ソックスは履いているが、それで

も足の裏がとても痛い。途中でたまりかねて靴を履いた。



辛亥(しんがい)革命(1911 年)を始めとする中華民国建国および革命、抗日戦争などで戦没した英霊を祀っている。



寿山公園は海拔 365m の万寿山の中腹にあり、高雄の町並みや台湾海峡を一望できる。沖合をたくさんの船が行き交ってる。世界三大港に数えられているだけのことはある。写真の右側から、巨大コンテナ船が入ってきた。



写真左の高い建物は、高雄 85 ビル (85 スカ

イタワー)。地上 85 階地下 5 階の超高層ビル。1997 年かから営業している。高さは地上 347m、アンテナを含めると 378m。台北 101 が完成するまで台湾で最も高かった。

ショッピング

昼食の前に、台湾民芸品店「高雄百貨公司」による。頼さんお薦めのアロエクリーム「養膚膏」、蓮の実で作られた菓子「蜂蜜雪蓮子」、メンマなどを土産用として買う。

添乗員の奥野さんによると、「高知の観光客は土産物をたくさん買う。都会の人に比べ、近所付き合いが多いため」ということであった。

確かに皆さん、山ほど土産物を買っていた。



店内には、「迷子になったから日本まで連れて帰って下さい!!」と書いた紙を右手に持った二宮金治郎像が置かれていた。



レストランに行くバスを待つ間も民芸品店の前の屋台でパイアのジュースを買って飲む。好奇心と食欲はまだまだ旺盛。

高雄から花蓮へ

レストラン「美濃客家菜」で台湾料理の昼食を済ませ、高雄国際空港から 12 時 50 分発のマンダリン航空で花蓮空港（かれんくうこう）に飛ぶ。

花蓮着は 13 時 45 分。ここは、中華民国国軍も使用する軍民共用空港。滑走路の周りには、戦闘機とその戦闘機を格納する掩体壕（えんたいごう、シェルターとも呼ぶ）がたくさんあった。高知龍馬空港には 7 基ある。

太魯閣(タロコ)渓谷

立霧溪（たつきりけい）に沿って、国道 8 号線をバスで登っていく。立霧溪は、3000m 級の山々が連なる台湾の中央山脈を源とする河川。その川の流れて大理石の山が浸食されてできたのがタロコ渓谷。20km の絶壁が続く台湾最大の景勝地で、太魯閣国定公園となっている。

タロコ渓谷は世界自然遺産級の価値があるが、台湾は国連に加盟していないため世界遺産に登録することができない。

国道 8 号線は、東海岸と西の台中を結ぶ唯一の中部横断道路。



立霧溪に沿って 20 分ほどバスで登っていくと、「布洛湾遊憩区」と書かれた看板があった。ブラウンレクリエーション村の意味。

かつてここは台湾原住民のひとつタロコ族の村。国道から左に入っていくと、タロコ族の部落生活を保つリゾート旅館などの施設があ

る。布洛湾(ブロン Bruwan)は、タロコ族の言葉で「こだま」を意味する。

ここで、バスに乗ったまま通行止めが解除となる 14 時 30 分まで待機する。この先で道路工事が行われているようである。



国道といっても、やっと履行できるような狭い箇所がまだ多く残っている。



ロックシェッド(洞門, 落石覆工とも呼ばれる)などの落石対策が随所に見られた。



タロコに入るとバスから降りて、溪谷を眺めながら歩く。



大勢の観光客が来ていた。



「燕子口」と刻まれた大理石。燕子口とは、ツバメが巣を作る穴のこと。



立霧溪の河床には、崖が崩壊して落下したと思える大きな岩塊がたくさん見られる。





至る所に「落石注意」の看板があった。



タロコ渓谷でもっとも素晴らしい景観が見られる「九曲洞」。タロコ渓谷の岩質は大理石。



絶壁のあちこちに小さい穴がある。かつては燕が巣を作っていたので燕子口と呼ばれている。



観光客が多い。「九曲洞」の中は観光客でごった返していた。

「錐麓・福磯大断崖」。頼さんの説明では、崖の高さは600m、幅は1,200mということであったが、ウィキペディア百科事典では、「高さ200mの大理石の1枚岩がそそり立つ」と説明されていた。



二本の橋「流芳橋」が架かっていた。



台湾の橋脚の基礎には簡易ウエルがよく使われている。



古い下流の橋は上路式のワレントラス橋, 上流の新しい橋はプレートガーダー橋。



タロコ溪谷の入り口にある長春祠へ引き返すバスの中で、頼さんが台湾語で自慢の喉を披露。



橋のたもとの展望台



国道から分岐し、長春祠に入る橋梁。



立霧溪のベント(河川が屈曲したところ)



絶壁をくり抜いて作られた長春祠に入る道路



国道 8 号線東西横貫道路の工事中に殉職した 212 名の霊が祀られている長春祠。

長春祠の対岸を国道 8 号線が通っており、国道の脇に展望台が付いた休憩所がある。そこで対岸の風景を眺めていると、四国地方整備局の大西隆氏より携帯に電話が入ってきた。このような山中まで電波が届くのかと驚いた。



立霧溪に架かっている橋。この橋の基礎もウェル(井筒、オープンケーソンとも呼ぶ)

大理石工場見学



花蓮市内で大理石の工場を見学する。この店もツアーのコースに組み込まれており、宝石で作られた指輪や腕輪などが販売されていた。



最初に台湾の地質の概要、台湾で取れる宝石について説明があった。



大理石工場の中の状況



大理石の器を研磨している状況



宝石か雑石かの見分け方を説明する係員。宝石は電灯の光が屈折せずに直進する。

花蓮の阿美文化村で民芸舞踊

台湾の人口は2,200万人。この内の2%に当たる50万人は、阿美(アミ)族やタロコ族など14種類いるといわれている原住民。一番多いのがアミ族で、15万人いる。

日本統治時代に撮影されたアミ族の男女の写真がウィキペディア百科事典で紹介されているが、アメリカ・インディアンそっくり。

花蓮郊外の海岸近くに阿美文化村があり、アミ族の民族舞踊が公演されている。



17時25分、阿美文化村に到着。既に10台ほどの観光バスが駐まっていた。ほとんど日本からの観光客。



公演が始まる前に記念撮影。



いろいろなダンスが披露されたが、最も楽しかったのは竹竿(バンブー)を使ったバンブーダンス。これは見事であった。



観客も参加して一緒に踊る。後で、ポラロイドカメラ撮った写真を売りつけられたが断る。

花蓮美侖大飯店 Parkview Hotel

6時50分、美侖(ビロン)大飯店に到着。花蓮駅や花蓮空港から車で10分程度の距離にある都市型リゾートホテル。1万坪の広大な敷地には芝生が植えられ、ゴルフ場になっていた。

7時30分よりホテルで広東料理の夕食。ホテルであれば、酔っ払ってもそのまま部屋に帰って休むことができるので気が楽である。



ホテルに到着



広い部屋に、大きなダブルベッドが2つ並べられていた。歯ブラシやグラスも4人分用意されていた。なぜか分からないが、どの部屋も同じだったようである。

インターネットの使用量は無料であるが、フロントでIDとパスワードを教えてもらわないとネットに接続することができなかった。



ホテルのロビーの正月飾り。2月6日からランタンフェスティバルが行われている。ランタンとは花燈のこと。

特急列車で台北へ移動(2月7日, 3日目)



ホテルを7時に出発してバスで花蓮駅へ到着



花蓮駅7時57分発の特急列車高雄行きに乗って台北へ向かう。

台湾には、山手線のように台湾鐵路管理局の鉄道が台湾本島をぐるりと一周している。この列車は、反時計回りの北経由で高雄まで行く。

私達が乗ったのは10号車の指定席。



列車の中でもiPadのメールと携帯電話で会社と連絡をとる。列車は太平洋沿岸に沿って走っている。都市部はネットが使えるが、途中の山が海岸に迫ったところは人家も少なく電波が届かない。



日本の列車とほとんど同じ。座席シートにテーブルは付いていない。



時刻表通り 10 時 55 分に台北駅へ到着する。

鼎泰豊で昼食

レストランの混雑を避けるため、予定を変更して、市内観光の前に昼食を済ませることにする。

レストラン鼎泰豊(デンタイフォン)は、本拠地である台湾の他に、日本、アメリカ、中国、オーストラリアやアジア各地に店舗を持つ上海料理レストラン。デンタイフォンの看板料理の小籠包は超有名で、昼時には長蛇の列ができる。

頼さんによると、「店員の仕事は非常に忙しいが、給料が他の店の 2 倍と多いため若者に人気があり、なかなか就職できない」ということであった。料理を運んでくるどの店員も、若くて動作がきびきびしていて良い印象を持ったが、この理由が頼さんの説明で理解できた。



小籠包、エビシュウマイ、蒸し餃子などに皆さん大満足。



今日は台北でも非常に寒い。外で順番を待つ客のためにガスストーブが用意されていた。さすが繁盛している店である。

中正紀念堂

中正紀念堂は中華民国の初代総統である蒋介石を顕彰し 1980 年に竣工。中正紀念堂の「中正」とは蒋介石の本名である。

午前 6 時 30 分に儀仗隊(ぎじょうたい)が中正紀念堂に進駐し、午前 9 時より警護が行われている。1 日に 10 時、11 時、12 時、13 時、

14時、15時、16時、17時の8回行われている儀仗隊の交代儀式は、台湾観光の名物となっている。



12時40分、大志門をから中に入る。



後方の建物が中正紀念堂

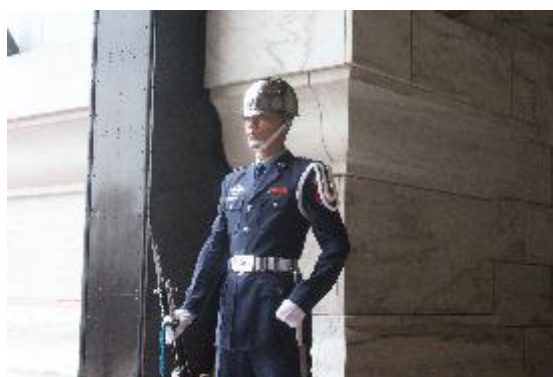


中正紀念堂の1階。奥に進むと蒋介石の銅像が置かれた2階へ上がる大きなエレベーターがある。正面から蒋介石の享年である89段の階段を上って2階フロアにも行けるが雨であったので裏口からエレベーターを利用する。



2階フロアの奥に正面を向いて鎮座している蒋介石の銅像。

後の壁には、蒋介石の政治思想「倫理」「民主」「科学」という文字が刻まれている。



2階フロアの入り口の両側には、儀仗(儀式に用いる装飾のある武器)を持った衛兵が微動だにせずに立っている。



1時間毎に行われている儀仗交代儀式が、13時から始まったので、それを見ることができた。静寂の中、足音と銃を床にたたきつける音だけが響き、約10分で儀式は終わった。

故宮博物院見学

故宮博物館は、台湾最大の見所。ロンドンの大英博物館、パリのルーブル美術館、ニューヨークのメトロポリタン美術館、サンクトペテルブルグのエルミタージュ美術館と並ぶ世界の五大博物館と賞されている。

故宮とは北京の紫禁城のこと。蒋介石が率いる国民党が台湾へ脱出したときに、紫禁城に収蔵されていた文物のほとんどをここに持ってきたと言われている。

収蔵品の数は約 60 万点ある。一部の常設展示物以外は、3 ヶ月ごとに入れ替えられている。全てを観ようとすれば 50 年はかかる。展示物の写真撮影は一切禁止されていた。

1 階が仏教美術と古書コーナー、2 階には宋、明、清の時代に作られた見事な陶磁器、書画、象牙を素材とした彫刻や七宝焼きが陳列されていた。

1 本の象牙から 17 層の球体をくり抜いた象牙透過人物套球(ぞうげとうかじんぶつとうきゅう)。翡翠の板で作られた碧玉(へきたま)屏風など神業ともいえる技術は想像を絶する。

3 階には新石器時代から漢代の翠玉白菜や荷葉筆洗、豚の角煮にそっくりな肉形石などの彫刻品が陳列されていた。



象牙透過人物套球(故宮博物院 HP より)



象牙雕人物玲瓏提食盒(故宮博物院 HP より)

「筆有千秋業」(筆に千秋の業あり)と名付けられ、秦・漢代 (221BCE-220CE) から明代 (1368-1644) の書道展があった。全くの門外漢なので書芸について論じることはできないが、技術伝承の重要性を実感することはできた。



写真は地下1階のロビー。奥には孫文の銅像があり、記念写真を撮る人気スポットになっている。

台北忠烈祠

台北の忠烈祠には、中華民国建国以来の戦死者 33 万柱の霊が祀られている。日本の靖国神社のような存在である。

毎日 9 時から 17 時の間、1 時間ごとに衛兵による儀仗(ぎじょう)交代儀式が行われている。忠烈祠は台湾各地にあるが、衛兵が警護しているのはここだけ。観光スポットの一つになっており、この日も多数の観光客が来ていた。

衛兵交代の儀式が観光のハイライト。私達は、17 時からの交代の儀式を見物することができた。

衛兵は台湾軍人のエリート。登用の条件は厳しい。身長 180cm 以上で視力がよく、気力、体力も要求される。次の交替までの 1 時間の間、まばたきさえゆるされない。

雨天の時には中止される。観光客を集めるためのショーのように思えてならない。



台北でのショッピングと夕食



金龍民芸品店には、宝石、菓子、ウーロン茶など台湾の特産品が売られていた。店の客は日本人ばかり。



金龍民芸品店はあまり興味がなかったのですが、5時30分に待ち合わせ場所になっていた近くの果物店に行く。

この果物店では、果物以外に土産用のお菓子やジャコー猫コーヒー(Weasel Coffee)なども売られていた。ジャコー猫コーヒーはガイドの頼さんから勧められていたが、味がいまいちであった。

いた。



釈迦の頭に似た果物・釈迦頭も売られていた



台湾最後の夕食は、「欣葉シンヨー」で台湾の家庭料理。メニューは、豚の角煮、鱈の揚げ物、蛤のスープなど。

士林夜市



夕食後、士林夜市(しりんよいち)を散策。写真の店では、100元から500元(300~1500円)の値段で若い娘用のお洒落な衣類が売られていた。ガイドブックに書かれていたので値引き交渉したが応じてくれなかった。

店舗の前には夜市の店員を募集する張り紙が目立った。時給は110元、日本円で約300円。給料は日本の1/3なのだろう。



散策が30分に限られていた。買い物をする余裕がないと思われたが、袋一杯買っていた人もいた。時間が8時前なのでまだ人出は少ない。



ブーツも300円で売られていた。余りにも安すぎる。本当に履けるのだろうかと疑いたくなる。

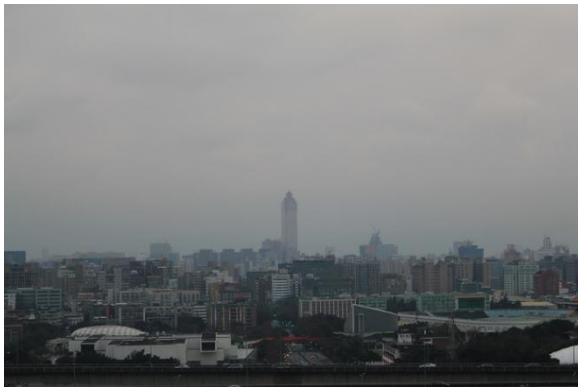
北京圓山大飯店



20時10分、圓山(まるやま)大飯店に到着。



部屋の外のバルコニーからの眺め



部屋の外のバルコニーから眺めた台北市街。中央にひとときわ高くそびえている建物が地上101階建ての台北101。高さは509mある。



圓山大飯店の正門。許可証がないと入れない。



中国クラシック建築様式の圓山大飯店

免税店でのショッピング(2月8日)



台湾最後の買い物は昇恒昌免税店。ランタンフェスティバルで来られていた高知県議会議員の皆さんも土産物を買っておられた。ここで買った免税品は、桃園国際空港で出国手続きを済ませた後に引き取ることになる。

台北から桃園国際空港へ

現在、台北駅と桃園国際空港を結ぶ新交通システム MRT(Mass Rapid Transit)が2013年の開業を目指して建設中である。建設工事の一部は日本の清水建設が行っている。新交通システムは、丸紅・川崎重工業・日立製作所の日本連合が受注している。

この鉄道が完成すれば、台北駅から50分かかるのが35分に短縮されることになる。



日本のアイサワ工業株式会社と株式会社クボタ建が特許を持っている「竹割り型構造物掘削工法」が橋脚工事の土留めに採用されている。



V形橋脚のプレストレスコンクリート橋



プレキャストセグメント工法による施工



グラウンドアンカーを用いた土留

あとがき

観光先はどこも良かったが、断崖絶壁が続く花蓮のタロコ溪谷、神業としか言いようのない彫刻や書画を展示した台北の故宮博物館は特に見応えがあった。宿泊したホテル、レストランの食事も満足でき、思い出に残る素晴らしい旅であった。

土佐電トラベルの奥野慎一郎さん、開発旅行者の頼兪仲さん、ご一緒させていただいた皆さんのお陰である。心より感謝申し上げます。



高雄龍虎塔(2012.2.5)開発旅行社撮影